

薬大協第37号  
平成25年7月2日

厚生労働省 医薬食品局長 殿

一般社団法人 日本私立薬科大学協会  
会長 井上圭三

### 第98回薬剤師国家試験問題の検討結果について

薬学6年制教育が完成して2回目の薬剤師国家試験（第98回薬剤師国家試験）が無事終了したことは、薬剤師国家試験の問題作成や試験実施に関わった全ての関係者の努力の賜物であり、私立薬科大学協会としても関係各位にお礼を申し上げる次第であります。

当協会では今年度も、昨年度に構築したITシステムを利用して、全国の国公立薬科大学・薬学部から全ての試験問題に対する評価・意見を収集しました。その後、7つの部会ごとに全大学の担当教員が集まって最終評価を行い、その結果を本報告書に纏めました。今後の国家試験問題作成に、少しでも役立てば幸いです。

全大学の意見を概観すると、昨年に比べて第98回薬剤師国家試験では良問が増え、複合問題についても実務と他分野の関連性の高い問題が増えていると評価されております。また、「物理・化学・生物」および「衛生」では考える力を問う問題が増えたことが評価されております。さらに、「病態・薬物治療」では新傾向のため正答率が低かったと思われる問題が見受けられますが、薬剤師として必要な内容であるため、今後も出題すべきであるとの評価を得ています。

一方、「薬剤」では、薬剤師として必要な投与設計に関する問題が出題されなかったことが問題視されました。また、「実務」では約3割の問題が否定形であり、なかには否定形の設問に否定形の選択肢を対応させていることは問題であるとの指摘がありました。さらに、「病態・薬物治療」の問題内容について、理論問題は「病態・薬物治療に関する一般的・標準的な知識」を、実践問題は「提示された症例・患者個別の解釈と問題解決」を問う問題が望ましいとの要望もありました。

尚、全員正解と扱われた問題以外に、「誤りがあると判断された問題」および「特に改善を要望する内容」を下記にまとめました。今後、これらの問題を出題する際には、内容や表現の訂正を要望する次第であります。

### 記

#### 1. 誤りがあると判断された問題

問 152 依存性薬物の中でジアゼパムなどの薬物はドパミン作動性神経を抑制することがいくつも報告されている。選択肢4は「依存性薬物は」という依存性薬物

全般を指して「ドパミン作動性神経を抑制する」と記述している。したがって、この記述は明らかな誤りとは言えない。

問 175 条件が記載されていないため、一般論としては正しいが、条件によっては必ずしも成り立たない場合がある。すなわち、選択肢3では、水和物と無水物でエネルギー差はほとんどなく、無水物で過飽和を形成しない場合は溶解度がほぼ同じとなる。選択肢4では、固溶体の定義が不明である。選択肢5では、互変性を示す場合、転移点前後で安定形、準安定形が変わるため一義的にどちらが安定とは言えない。「単変性を示す」と付ける必要がある。さらに、選択肢2と4は他成分混合物の話であるので、「薬物の物性に関する」とするのは妥当ではない。

問 177 球形の範囲があいまいであり、攪拌造粒で必ずしも球形顆粒が得られるとは限らない。攪拌造粒と回転造粒と転動造粒の違いが不明瞭であるため、攪拌造粒（湿式高剪断造粒）などの気配りが必要である。球形造粒の製造を目的とする場合は、回転造粒（転動造粒）となる。また、流動層造粒法でも、装置を選択すれば重質で球形な粒子を得ることが可能。したがって、選択肢4では、「原則」または「一般的には」などの言葉を付け加える必要がある。本問題は、造粒法に関して細かすぎるといふ指摘もあり、適切性、選択肢の表現など多くの点で問題があるように思われる。

問 178 ピロー包装の定義があいまいなので、選択肢4は完全に誤りといえない。顆粒剤などを一回服用量ずつに包装したものをスティック包装といい、スティック包装はピロー包装の一種ともみなされる。

問 196-197 問題文に“急性憎悪の診断で入院”とあるが、憎悪ではなく増悪である。

問 205 選択肢3に関して、ガドテル酸メグルミンでは、ガドテル酸の $Gd^{3+}$ にDOTA（1、4、7、10-テトラアザシクロドデカン四酢酸）が配位しており、メグルミンが配位しているのではない。従って、選択肢3は誤りであり、正解は3および4となる。選択肢1に関して、磁石が円筒形であると決まっているわけではないので、必ずしも正しいとはいえない。全体的に考えて、廃問とすべき問題である。

問 222 「薬剤師が確認する内容として適切でない」という表現が曖昧である。選択肢2のカルボプラチンを混和する液はブドウ糖注射液又は生理食塩液であるため、混合液としての注射用水は医師への疑義照会となる。薬剤師が確認する内容として適切でない、という意図がわかりにくく誤解を招く。

問 224-225 問題文に、“血清クレアチニン値 1.8 mg/mL” とあるが、血清クレアチニン値の単位は mg/mL ではなく mg/dL である。

問 233 予防接種に関する問題文に「定期」予防接種という重要な情報が欠落している  
ので、任意の予防接種を含めて考えると設問の意味がなくなってしまう。また、  
百日咳菌に対するワクチンはトキソイドワクチンではないが、不活化成分ワク  
チンとして変性させた百日咳菌毒素を含んでいるので、選択肢4の「百日咳菌  
のトキソイドが含まれている」との記述は誤解を招く。選択肢2の「小学校就  
学前」という表現も、どの年齢を示すのか曖昧すぎる。この問題を過去問とし  
て残さないことを要望する。

問 254-255 問題文に“非 ST 上昇心筋症” とあるが、非 ST 上昇心筋梗塞である。

問 256 腎不全での透析施行中の患者では、タンパク質摂取量を 1.0~1.2 g/kg/日を目  
標にすることが推奨されている。薬剤師も栄養量を確認する必要があるので、  
服薬指導時にタンパク質摂取量を確認することは適切である。「タンパク質量が  
制限されていること」という表現が曖昧である。

問 314 “最も適切なものを2つ選べ” とあるが、“最も” は不要である。

#### 【薬剤名、規格、用法・用量の記載の誤り】

問 202 メジコンシロップの正式名称はメジコン配合シロップである。

問 249 ハルナール OD 錠の正式名称はハルナール D 錠である。

問 262 アルベカシン硫酸塩注射液は、200mg バイアルとあるがアンプル製剤のみであ  
る。

問 291 レボドパ 250mg・カルビドパ水和物 25mg 配合錠はレボドパ 250mg・カルビドパ  
水和物 27mg（無水物として 25mg）配合錠である。

問 253 問題文の（処方2）のシダグリプチンリン酸塩水和物 50mg の用法・用量の記載  
が1回1錠（1日1回）となっているが、正しい記載は1回1錠（1日1錠）で  
ある。

問 218 処方1から処方2のリラグルチドに変更された症例であるが、リラグルチドが  
1日1回 0.9mg となっている。添付文書に本剤は「胃腸障害の発現を軽減する  
ため、1日1回 0.3mg から開始し、1週間以上の間隔で 0.3mg ずつ増量し、1日  
0.9mg を超えないこと」となっている。適正な用法・用量を用いていただきたい。

## 2. 特に改善を要望する内容

問 265 設問が「適切ではないものを選べ」と否定形であり、解答である選択肢 2 も否定形であるため、わかりづらい。

### 受容体の標記について

アンギオテンシン AT<sub>1</sub> 受容体 (理論 問 157) のような受容体の命名法は間違いではないが、「生体内リガンド名+サブタイプ名+受容体」(アンギオテンシン II AT<sub>1</sub> 受容体) という書き方に統一してほしい。この点は昨年度も同様の要望が出ているので、迅速な対応を求めたい。

### 複合問題について

問 246-247、問 252-253 処方 1 の薬物と処方 2 の薬物の薬理作用を取り違えて解答した場合も正解になってしまう問い方であるので改善を求めたい。

問 260-261、問 270-271、問 272-273 2 つの問いの関連性が非常に強く、前問が正解することが前提となって問われるべき問題である。このような問題を出題するのであれば、その採点においては両方正解で初めて点数を与えるなど、将来へ向けての検討が望まれる。

問 268-269 「この患者で」と記載しておきながら、問 269 では一般論の選択肢となっており、患者の症例との関連性に関して問うていないのは複合性という点で疑問である。

### 「病態・薬物治療」の問題内容について

SOAP 等の患者情報の基本に関する問題が多く、本来の病態や薬物治療についての問題が少ない。また病態のみを問う問題が多く、薬物治療に行き着いていない。これらは、来年に向け改善が必要と思われる。

### 制度等の改定について

直近に改定となった調剤報酬の内容を出題することは、避けることが望ましい。また、改定して何年後の国家試験から出題されるかについて、指針が示されることを要望します。

### 必須問題について

必須問題の得点が合格点の多くを占める(易しい必須問題で得点をかせぐ)という弊害を鑑みて、必須問題の取扱いについて将来へ向けての検討が望まれる。

その他の意見については、別添資料の各部会報告書にまとめられているので、参考になれば幸いです。

以上